

平成 29 年度 第 3 回 SPring-8 ユーザー協同体評議員会 議事録

日時：平成 30 年 1 月 9 日（火）10 時 00 分～11 時 00 分

場所：つくば国際会議場 4 階 小会議室 404 号室

（〒305-0032 茨城県つくば市竹園 2 丁目 20 番 3 号）

出席者：中川敦史(会長)、足立伸一、雨宮慶幸(監事)、岡島敏浩、尾嶋正治、坂田修身(副会長)、堂前和彦、水木純一郎、村上洋一、吉木昌彦、有馬孝尚(利用委員長)、片山芳則、岸本浩通、城戸伸明、小原真司、高原淳(監事)、西原克浩、原田慈久(企画幹事)、藤原明比古(BL 高性能化 WG 責任者)

幹事/杉本宏、高尾正敏(副会長)、上原康、若林裕助、加藤健一、西堀麻衣子、木村昭夫、田中義人

委員/西堀英治(企画委員長)、田中雅彦(選挙管理委員長)、水口将輝(利用委員)、

オブザーバー/山川晃、櫻井吉晴、大端通、木下豊彦、矢橋牧名、石田浩康

事務局/ 坂川琢磨

1. 会長挨拶

議事に先立ち、中川会長より挨拶があった。これまでの主な活動として、BL 高性能化についての作業部会を立ち上げたこと、その中間報告書が近いうちに HP で公開されること、また、三者会合(SPRUC-理研-JASRI)を 2 ヶ月に 1 度程度のペースで実施したことに触れられた。また、新企画として、9 月に秋の学校が、夏の学校とは異なる趣旨で行われたことが報告された。さらに、今後の検討項目として、SACLA-UC から SPRUC との今後の連携について言及があった。

2. 配布書類の確認

審議に先立ち、以下、配布資料（下記参照）の確認があり、同時に、平成 29 年度第 2 回評議員会の議事録(案)について当会議内で確認のうえ承認された。

審議事項

3. 次期会長の選出

評議員の互選により、次期会長は水木純一郎関西学院大学教授に決定された。

4. 三者会合の報告と専用ビームラインの運用について

三者会合は各機関(SPRUC-理研-JASRI) 4 名ずつで構成され、開催日程は、SPring-8 シンポジウムの前に 3 回(6 月～7 月)、その後 1 回(9 月)、この後(1 月)に開催予定として進められているとの報告があった。会合内容の概要は、以下の通り。SPring-8 シンポジウムのパネルディスカッションをきっかけに始まり、BL 高性能化 WG とも強く関連した議論が行われてきた。主な話題としては、SPRUC における BL 高精度化 WG の位置づけ、JASRI 策定の整備計画、パネルディスカッションのプログラム内容、シンポジウムの総括、SPRUC が解決すべき課題、SPring-8-II に向けての取り

組みである。特に今後の専用 BL 運用については、石川センター長より、提案（別紙配付）があり、企業を含む専用 BL 関係者は持ち帰って検討してもらい、意見を SPRUC に連絡して欲しいとのことである。受理した意見は今後の三者会合で協議することのこと。このように、SPRUC は施設とユーザーの間の意見交換をサポートする役目を果たしていく旨説明があった。

当該提案は、既に文科省に提出された内容であり、具体的に内容が読み上げられた。これに対して、専用 BL 関係の評議員からはタイムスケジュールや年間利用料等について意見・コメントがあった。

5. 研究会の旅費補助について（若林幹事）

資料 8 に基づき 研究会補助の内規の改定の提案があった。加えて、中川会長より改定についての趣旨説明があった。また、以下の質疑応答があった。

（評議員）「研究会に参加したことがないこと。」の条件が必要か。

（有馬委員長）SPring-8 を使ったことがないが、研究会に参加しているケースを想定して作成した。

（中川会長）「当会の」という文言が曖昧であるため、「SPRUC の」と修正した方がよい。→その後の議論で「SPring-8 ユーザー協同体の」に修正。

以上の議論をもって、修正を含めて承認された。

6. 第 4 期研究会設置と継続申請に対する勧告について（若林幹事）

資料 9 に基づき、第 4 期研究会の設置申請の受付を開始する旨説明があった。なお当該申請における 3 期研究会からの継続申請の場合、活動状況が活発でない（研究会の未開催、レフェリー等推薦無し、アンケート無回答等）研究会については、勧告を行うことが提案され承認された。中川会長より、「研究会」から強く意見や情報を発信して欲しいというのが本意である旨コメントあった。

7. SACLA-UC との今後の連携について（継続審議）（杉本幹事）

昨年末に、SACLA-UC ミーティングの世話人でもあった矢橋氏（JASRI）から、SPRUC となんらかの連携をしたいとの申し出があり、今後、連携か合流かも含めて、SACLA-UC の代表者とも相談していきたい。4 月の評議員会あたりに SACLA-UC 関係者を招いて議論する予定であることと説明があった。これに対して、以下のコメントがあった。

（評議員）SACLA-UC とはそれぞれの問題点を共有しあって、執行部で話し合った方がよい。評議員会では大まかな流れについて合意をとりつけければよいのでは。

（中川会長）SPRUC 会員 13000 名に対して SACLA-UC のみの会員は 300 名であり、オーバーラップは大きいこともあり、合流すべきと考える。一方で SPRUC も発足して 6 年経てまだ大きな問題もかかえている。合流すべきでないという意見があれば、そういう意見もいただければと思う。

8. 会長の選出方法について（継続審議）

会長の選出方法について、新方式の提案についての説明があり、「互選」から「審議」に改定したいとの旨、提案があった。現在は、代表機関が推薦したメンバーに対して投票が行われて評議員が決まっており、その評議員の中から会長を選ぶという規定になっているが、それには限界がある場合があるのではと思われるため。来年度の総会での改定を検討したいとのことであった。

報告事項

9. 選挙管理委員会報告（田中委員長）

第7回評議員選挙の管理委員会は田中雅彦委員長、星野大樹委員で構成され、学術研究機関より推薦された40名から10名の評議員の選出と、産業機関から推薦の5名の信任投票がなされた旨報告があった。なお、任期は2018年4月1日から2019年3月31日まで。

10. 次回 SPring-8 シンポジウム開催計画について（杉本幹事）

SPring-8 シンポジウム2018は、2018年8月25日-26日に姫路市民会館で開催決定の報告があった。実行委員長は兵庫県立大学籠島教授。

11. 分野融合型研究グループ活動報告（水口委員、杉本幹事）

資料10に基づきナノデバイス科学分野の活動について、水口委員（第2期担当）より報告があった。また、小野POより、当研究会も、第4期研究会の設置申請を行い、一般会員の登録を募り、より会員の裾野を拡げて活動の幅を拡げていきたいとの提案があったと報告された。本案件について承認された。質疑・コメントは以下の通り。

（中川会長）元来の趣旨は、新分野創成課題というのは、立ち上げて安定したら研究会を作っていただくということなので、現状は、その過渡期であるという認識をしている。是非とも検討を進めてもらいたい。

杉本委員より、「実用」についても研究会開催も含めて順調に進められている旨報告があった。質疑・コメントは以下の通り。

（評議員）あとの2分野はどうなっているのか。

（杉本幹事）白紙の状態。現在、ナノデバイスと実用の2つに集中して進めている。

（評議員）冷めてしまわないうちに、早く判断した方がよい。

12. 秋の学校（杉本幹事）

資料11に基づき秋の学校の開催報告があり、43名の参加があり、好評であったとの報告があった。時期については見直しがあるかもしれないが、来年度も続けていく予定との説明があった。

13. SPRUC ビームライン高性能化検討作業部会報告（藤原委員長）

資料 12 の p.47 以降に各研究会に行ったアンケートを取り纏めた中間報告書を会長に提出した。各研究会には、当初非公開ということをお願いしたが、公開が可能か確認し、全研究会から公開の承諾を得て、公開の予定であることが報告された。

14. 今後の活動計画について（杉本幹事）

資料 13 に基づき、2017 年度の今後の活動計画について報告があった。3 月に動向調査報告書とりまとめ、4 月中旬には平成 30 年度第 1 回評議委員会が行われる予定。なお、今年のシンポジウムの組織委員会は早めに立ち上げる予定とのこと。

以 上

配付資料：

資料 1. 平成 29 年度第 2 回評議員会議事録(案)	p.1-3
資料 2. 第 7 回評議員選挙結果報告	p.4-5
資料 3. SPring-8 シンポジウム 2017 開催報告	p.6-27
資料 4. SPring-8 シンポジウム 2018 開催計画	p.28-29
資料 5. SPring-8 シンポジウム 2017 予算・実績	p.30
資料 6. H29 年度 SPRUC 予算執行	p.31
資料 7. H29 年度研究会活動状況報告	p.32-33
資料 8. SPRUC 研究会活動補助内規の改定について	p.34-35
資料 9. SPRUC 第 4 期研究会の設置について	p.36-40
資料 10. 分野融合型研究グループ活動報告	p.41-42
資料 11. 第 1 回 SPring-8 秋の学校開催報告	p.43-45
資料 12. ビームライン高性能化検討作業部会報告	p.46-61
資料 13. 今後の予定他	p.62